



地域連携だより

発行：JA新潟厚生連 小千谷総合病院 患者サポートセンター

〒947-8701 小千谷市大字平沢新田111番地

TEL. 0258-81-1616(直通) FAX. 0258-81-1602(直通)

新年のご挨拶

新潟県厚生連小千谷総合病院 病院長

柳 雅彦



皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

去年は当院にとって地域の医療ニーズの変容に対応するため大きな変革を迎えた年でした。

一つは当院の医療入院病床を199床に変更したことです。平成のころから言われ始めた少子高齢化が現実となり、そしていよいよ迎える人口減社会に向き合っただけの変革です。当院の医療スタッフも少ない要員かつ高齢化が進んでいますが、元気に市民のみなさまへあるべき地域医療をご満足いただけるかたちでご提供できるように日々心を砕いております。

二つめとして介護分野としても地域貢献できるように、医療入院病床を絞り込み空いた設備を活用して介護医療院80床を開設しています。院内併設型の介護医療院ですので医療と介護のシームレスな運用が可能どころが特徴です。当院での入院治療が終了したけれど介護必要度が高く他施設入所まで期間を要する方が一旦入所されるケースや、自宅に代わる療養の場としてご利用のケースなどがあり、開設1年目ですが現時点ではおおむね95%の利用率となり多くの方にご好評をいただいております。

このように地域の医療介護ニーズに合わせながら、当院も変容・変革を迅速に進めていくつもりです。私としては「変えてみてなら、結果失敗であってもいい」と個人的には考えています。自らを変えられる姿勢にあるのならば、そこでまた修正するだけなのです。怖いのは「変わらない硬直化」であると思っています。今後もどのような方向に変わっていくべきなのか、小千谷、新潟、日本の医療や社会の変化の方向性を注視していきます。

一方で当院には慢性的赤字収支という民間企業としては決定的な問題点が存在します。いままでは新潟厚生連という大きな企業集団のなかでその問題が消化されてきました。しかし平成後期から令和になり新潟厚生連全体でもその収支状況が悪化し現在は危険水位にあることは、各報道によりみなさまご存じのとおりです。地域のみなさまにもご心配をおかけすることとなり大変心苦しく思っております。当院も一日も早く民間企業としての体質を強化しその運営を確固として継続することが、すなわち当地域の医療保健福祉に貢献することに直結すると思っております。

これからも皆さまにとって身近な病院としてお役に立てることを喜びと感じ元気に活動に臨む所存です。皆さまのご健康とご健勝を祈念しご挨拶とさせていただきます。今年もよろしく願いたします。



新年のご挨拶

事務長 長谷川 拓史



日頃より先生方には病院へのご協力のご理解をいただき御礼申し上げます。

小千谷総合病院は開院より8年が経過しようとしております。これも地域の皆様方の多大なご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

さて、当院を運営しております厚生連では外部有識者で構成する経営改善推進委員会より「厚生連病院の役割・あり方等に関する提言」が令和6年5月に提出されました。その中で、小千谷総合病院は地域密着型病院と分類され、地域包括ケアシステムの拠点を担うとともに、圏域の中核病院との連携を強化していくこととされました。また、機能・役割として、以下の4点が示されました。

- ◆地域のかかりつけ医（病状安定、急変対応、看取り、健康管理）
- ◆地域包括ケアシステムを支える拠点
- ◆医療介護連携窓口
- ◆広域基幹病院及び地域中核病院の後方支援

これらの提言を真摯に受け止め、必要な機能を整備し、小千谷地域での医療を展開してまいります。

また、当院では令和6年4月に、医療病床を300床から199床に削減し、新たに介護医療院80床を開設いたしました。医療・保健から介護福祉までをトータルでサポートする病院として運営してまいります。これまでどおり、一定の地域での救急受入に加え、直接入院の他、転院の受入についても積極的に対応してまいります。また、スムーズな在宅、介護等との連携を強化してまいります。

医療を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、これからも、小千谷地域の医療の拠点として、地域の皆様より信頼される病院づくりに尽力いたします。引き続き、皆様との連携を深め、小千谷地域の医療の充実に努めて参りますので、本年も小千谷総合病院を何卒よろしくご挨拶申し上げます。



新年明けましておめでとうございます。

看護部長 島川 夏代

昨年は、実患者数や患者層から医療ニーズに見合った適切な病床数として199床へ変更し、5階フロアを病院併設の介護医療院80床へ転換した大きな変化の年でした。

介護医療院は、要介護高齢者の長期療養と生活施設としての機能に加え、医療ケア、看取りも可能な介護保険施設です。病院併設のため、受診や入院がスムーズにできることが最大のメリットであるため、理念を『医療と介護のシームレスな連携で安心して生活できる場を提供します』としました。どのような生活を望むかご本人・ご家族の意向を取り入れ、安心して生活できる『住まい』を目指してスタッフ一同頑張っております。医療ニーズの高い要介護者の受け入れが可能のため、地域における役割と捉え、地域の皆様から小千谷総合病院に介護医療院ができてよかったと言っていたいただける施設にしていきたいと思っております。

更には、新潟大学に寄付講座「地域連携のための内部障害リハビリテーション学講座」が開設され当院をフィールドに内部障害リハビリの体制整備が始まりました。看護部でも病前B I（バーセルインデックス）の評価に取り組み、オーダリングシステムで可視化することで多職種と共有し、カンファレンスやベッドコントロール等で活用しています。入院後にADLを落とさずに病前B Iに近づけるようにリハビリの強化にも取り組んでいます。今後更に退院支援のスキルアップを目指していききたいと思います。

今年度の看護部のテーマは『患者の思い中心の看護』です。患者さん・ご家族の意向に添った入退院支援で希望を叶えることが私達のやりがいや喜びにもなります。今後も思いやりの心と謙虚な気持ちで看護・介護を提供し、地域の皆様から必要とされる看護部を目指していききたいと思います。地域の中核病院の看護部として、関係機関の皆様と更なる連携で、共に地域の健康を支える役割を果たしていきたいと思っております。

本年も何卒よろしくご挨拶申し上げます。



患者サポートセンター

チーフマネージャー 安部 充 美
マネージャー 島 村 真 弓

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は関係機関の皆様には大変お世話になりました。

当患者サポートセンターは、本年も医師1名、看護師5名、医療ソーシャルワーカー4名、事務員1名の11名体制で、病診連携・病床管理・入退院支援・医療福祉相談・在宅医療推進センター事業（医師会委託）をおこなってまいります。

昨年は、4月に介護医療院が開院し、患者サポートセンターとしても転院相談や退院支援を通じて、入所相談や入所調整など院内外の連携窓口としての役割を果たしてきました。また6月の診療報酬改定に伴い、当院と協力医療機関になっている施設の皆様とも毎月定期カンファレンスを重ねる中で、課題の共有や解決に向けた取り組みができました。

病診連携では、地域住民が安心して在宅療養ができるよう他医療機関からの受診、検査受け入れや地域診療所のバックアップ体制を整えご依頼をいただいております。維持継続に引き続き取り組み、地域包括ケアシステムを支える地域密着型病院として、皆様のお役に立てればと思っております。また、長岡市など近隣急性期病院からの転院受け入れをスムーズに行い後方支援の役割を果たせるよう地域と連携してまいります。

患者サポートセンターの役割や取り組みを通じて、急性期病院・地域の診療所・福祉施設など多くの関係機関の皆様と直接お話ができることを嬉しく、大変有り難く感じております。

本年も皆様に少しでもお役に立てますよう、取り組んで参りますので引き続きよろしくお願いいたします。



前列左より：チーフマネージャー 安部／地域連携支援部長 家里／マネージャー 島村

編集後記

地域連携支援部長 家里 裕

明けましておめでとうございます。

人口減少、少子高齢化が進む中、昨年来、厚生連と県立病院の巨額赤字が大きな問題となり、地域医療の存続の危機に面し、県と厚生連との間で医療再編を含めた地域医療のあり方の協議が行われています。

当病院では、高齢化が進み慢性期患者の増加に対応するため、昨年4月に病院内に介護医療院を開設しました。日常的な医療ケアの高い利用者が多く、その受け皿として運営していますが、利用状況は順調に推移しています。

地域連携支援部として、今まで以上に地域の医療機関や急性期病院と連携を密にして、地域の医療を守るため頑張りたいと考えています。